

IV 全体考察

1 情報の入手方法について

普段最も利用している情報媒体は、「テレビ」(34.5%)が最も多く、次いで「インターネット」(29.1%)、「新聞」(17.0%)、「SNS」(12.6%)の順となっている。

近年利用が増えている「SNS」について詳しく質問したところ、「Facebook」と「Twitter」がともに、24.3%で最も多くなっている。

北九州市からの情報を入手する手段として「市政だより」(29.4%)が最も多く、次いで「テレビ」(18.6%)、「新聞」(13.6%)、「インターネット」(12.1%)、「北九州市ホームページ」(7.9%)、「冊子類」(7.3%)、「SNS」(4.2%)の順となっている。

近年利用が増えている「SNS」について詳しく質問したところ、「Facebook」が56.3%と最も多くなっている。

2 北九州市公共施設マネジメント実行計画の認知度について

(1) 実行計画の認知度

北九州市公共施設マネジメント実行計画(以下、「計画」という。)に関して「内容まで知っている」と「内容は分からないが計画があることは知っている」の合計は24%で、「知らない」は75%となっている。

年代別にみると、「知らない」と答えた人の割合は、10歳代から40歳代は64人中57人(約89%)で、50歳代から80歳代は83人中54人(約65%)となっている。

また、「内容まで知っている」または「内容は分からないが計画があることは知っている」と答えた人の中で、計画を知った情報媒体として、「市政だより」(40.0%)が最も多く、次いで「新聞」(12.0%)、「冊子」(12.0%)、「インターネット」(10.0%)、「北九州市ホームページ」(10.0%)の順となっている。

(2) 認知度向上のための効果的手法

計画を「知らない」と答えた人の中で、計画を知ってもらうためにどのような広報媒体が効果的かとの問いに対し、「テレビ」(36.0%)が最も多く、次いで「ラジオ」(19.7%)、「SNS」(19.7%)、「新聞」(12.3%)の順となっている。

3 シンポジウム・講演会の広報について

シンポジウムや講演会の開催告知について、市政だよりだけでなくチラシの配布(各自治会、施設など)、ポスターの掲示(モノレール、市内大学など)、市政テレビ・ラジオ、北九州市の Facebook・Twitter、サンデー北九州、メールニュース北九州、北九州市のホームページなどで情報発信してきたが、「知っている」は8%であり、「知らない」は91%となっている。

また、「知っている」と答えた人のうち58%の人が参加したことがなく、そのうち、「参加したかったが、都合がつかなかった」が57%、「シンポジウム・講演会のテーマや内容に魅力を感じなかった」が43%となっている。

4 公共施設の利用状況について

(1) 現在の公共施設の利用状況

定期的に利用している施設(「週1回以上」、「月に1回程度」及び「年に数回」の利用者の合計)としては、「図書館」(68.0%)が最も多く、次いで「市民センター」(42.9%)、「市民会館・文化ホール」(27.3%)の順となっている。

「利用したことがない」と答えた人の割合が50%を超える施設は、「年長者いこいの家」(85.0%)、「勤労青少年ホーム」(76.9%)、「青少年施設(青少年キャンプ場)」(72.1%)、「生涯学習センター」(55.8%)となっている。

(2) 過去(10年前)の公共施設の利用状況

定期的に利用していた施設(「週1回以上」、「月に1回程度」及び「年に数回」の利用者の合計)としては、「図書館」(70.0%)が最も多く、次いで「市民センター」(51.7%)、「市民会館・文化ホール」(40.8%)の順となっている。

「利用したことがない」と答えた人の割合が50%を超える施設は、「年長者いこいの家」(70.7%)、「勤労青少年ホーム」(68.0%)、「青少年施設(青少年キャンプ場)」(66.0%)、「青少年施設(少年自然の家などの宿泊施設)」(58.5%)「生涯学習センター」(51.7%)となっている。

(3) 今後10年間の公共施設の利用予定

今後10年間の公共施設の利用予定について、利用しようと「思う」は89%で、「思わない」は10%となっている。

定期的に利用したい施設(「週1回以上」、「月に1回程度」及び「年に数回」の利用者の合計)としては、「図書館」(74.8%)が最も多く、次いで「市民センター」(61.8%)、「市民会館・文化ホール」(48.3%)、「スポーツ施設(体育館)」(40.8%)、「スポーツ施設(体育館以外)」(38.1%)、「生涯学習センター」(37.4%)の順となっている。

「利用しない」と答えた人の割合が50%を超える施設は、「年長者いこいの家」(59.2%)、「勤労青少年ホーム」(57.1%)、「青少年施設(青少年キャンプ場)」(55.8%)、「青少年施設(少年自然の家などの宿泊施設)」(53.7%)となっている。

5 計画の取組みについて

(1) 公共施設マネジメントの8つの基本方針について

「大いに進めるべきである」と「できるだけ進めたほうがよい」の合計は、「特定目的施設や利用形態の見直し」に関する取組みが最も多く、「誰でも利用しやすい施設とする」(91.1%)、「利用効率を向上させる」(92.6%)となっており、多くの項目が75%超となっている。

「できるだけ進めないほうがよい」と「進めるべきでない」の合計は、「公共施設に併設している駐車場の有料化を検討する」(42.2%)が最も多くなっている。

(2) 8つの基本方針に関する取組みへの満足度

「満足」と「やや満足」の合計は、「市民センターを中心とした地域コミュニティ活動の充実」(60.5%)が最も多く、次いで「民間施設・ノウハウの活用」(57.1%)の順となっており、多くの項目で50%を超えている。

(3) 今後重点的に取り組んで欲しい基本方針

「施設の集約と利用の効率化」(21.0%)が最も多く、次いで「市民センターを中心とした地域コミュニティ活動の充実」(15.1%)、「民間施設・ノウハウの活用」(13.3%)、「利用料金の見直し」(13.3%)、「特定目的施設や利用形態の見直し」(12.7%)、「まちづくりの視点からの資産の有効活用」(11.4%)の順となっている。

【市政モニターに関すること】

広報室広聴課（TEL：582-2527）

【アンケートに関すること】

企画調整局都市マネジメント政策課（TEL：582-2076）